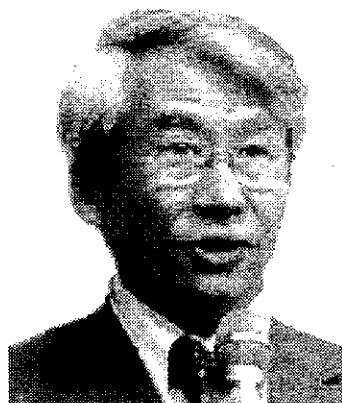


# 「戦争と医学」展と国際シンポジウム 「戦争と医の倫理」を終えて



Katsuo Nishiyama

西山 勝夫

第27回医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員長  
15年戦争と日本の医学医療研究会事務局長  
滋賀医科大学社会医学講座予防医学分野  
滋賀医科大学教授

昨年2006年7月30日に第27回医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員会が発足し、私はその委員長という大任に推挙され、委員、事務局の方々と一丸となって本年2007年4月8日の展示と国際シンポジウム終了まで、ひた走りに走ってきました。以下にその主な経緯を振り返ることにより、4年後の日本医学会総会に向けての取り組みに資することができればと思います。

## プロローグ

私は、大学卒業以来、主に労働衛生学の研究教育に携わり、働く人々のいのちと健康を守るための実践に取り組んできました。もっとも関係の深い学会である日本産業衛生学会の1998年の第71回学会メインシンポジウム「今世紀における産業衛生の成果を問う」におけるかつての戦争に対する反省のあり方に疑問を持ったことが契機となり、筋昭三先生の知己を得、水野洋先生、門脇一郎先生、今は亡き山下範義先生とともに、15年戦争と日本の医学医療研究会（以下、戦医研）の発足の呼びかけがなされ、2000年6月17日に京都の同志社大学で戦医研は創立されました。私は、そこで大阪府保険医協会の今は亡き竹内治一先生に初めてお会いし、先生の戦後50周年に当たっての大阪府保険医協会決議や医師の戦争犯罪に対する反省を

求める医師会に対する取り組みを伺いました。2002年に日中国交回復30周年を記念して北京で開催された「日中医学大会2002」には、戦医研を中国に紹介し、日中共同研究の手がかりを得るために、思い切って筋先生とともに出かけました。しかし、この頃は、戦医研の活動の道筋も見えず、2007年の医学会総会に対する取り組みなどの考えは全くないような状況でした。

ところが、2003年8月チチハルで旧日本軍の遺棄化学兵器による被害の発生が契機になって、2002年訪中時にお会いした方から訪中調査団受入の呼びかけがあり、以後数次にわたることになる戦医研訪中調査団の派遣が始まりました。また、同年「陸軍軍医学校防疫研究報告」復刻にとともなう解題の課題が持ち上がり、その後この解題研究を視野に入れた文部科学省の科学研究費助成申請がヒットしました。2004年末竹内先生の急逝後、大阪府保険医協会の先生方が、その遺志を継がれ、2005年 保団連医療研究集会・特別企画・国際シンポジウム「医師・医学者の戦争責任を考える——関東軍731部隊をめぐって」の取り組みを強化し、戦医研との連携を緊密にされ、私も国際シンポジウム・ワーキンググループに加えていただきました。この国際シンポジウムは日本の医師の代表的な全国組織の取組みという点で歴史的出来事であり、また大きな成功を収めたと思います。戦

医研は、2006年1月に日本医師会植松治雄会長を訪問し、日本医師会として731部隊問題等についての歴史的検証が必要であると要請をしました。会長からは1. 要請はきちんと検討する、2. 戦争中のことについては史実に基づく検討が必要と考える、3. 過去のことはこれからはいかすという点で重要である、4. ただ、政治的に捉えられかねない面があるので、配慮して取り組まなければならない、という見解が示されました。以上の情勢を踏まえて、同3月の戦医研定例総会では年度方針として第27回日本医学会総会（会頭は岸本忠三前学長）に取り組むことが決められました。

## 第27回日本医学会総会への打診

第27回日本医学会総会のホームページから、総会実行委員会のもとに学術展示委員会と企画展示委員会が組織されていることが分かりました。その委員でもある大阪大学大学院医学系研究科森本兼曩教授に、5月仙台で開催中の日本産業衛生学会時に会いました。その際に「日本のかつての戦争での日本の医学医療・医師・医学者のかかわりに関する史実を紹介し、その教訓を解明し（広め）、これからの日本の医学医療・医師・医学者のあり方に生かしてもらおう展示を目指している。史実・資料の展示、映像上映を展示会場で、できれば国際シンポジウムをとという企画を考えている。2006年8月には北京で国際生命倫理学会が開催され、元WHOの生命倫理担当のハーバード大学のWikler博士が731の教訓を世界にいかすということでシンポジウムを企画している。この様子も踏まえて、Wikler博士の招聘も考えている」と相談しました。

森本教授のご助言で、6月初旬に企画展示委員会武田裕委員長に、「今回の第27回日本医学会総会の『企画展示(みんなで考える医学と医療)』に『戦争と医療(仮称)』展を申し込みたいので、実現に配慮していただきたい」という旨の要請文を出しました。

このような状況を踏まえて、戦医研から呼びかけて、7月30日に大阪府保険医協会会館で第27回

日本医学会総会企画展示「戦争と医学・医療」展実行委員会の設立にとりくむことになりました。

かさね重ねの医学会総会企画展示委員会事務局幹事に対する回答要請に対して、7月26日ようやく返信が届きました。しかし、その内容は、以下(概要)のように提案を拒絶するものでした。

大きなテーマをご提案いただき事務局としても慎重に検討させていただきました。結論から申し上げて実現は困難かと思われませんが、以下、その理由を述べさせていただきますので、お読みいただければ幸いです。

- 1) 企画展示は一般市民向けの企画であります。ご提案の内容はむしろ医療従事者を一義的な対象とした内容かと存じます。
- 2) 企画展示の主会場となる大阪城ホールの展示方針は、ホームページにございますが、この内容で企画がまとまっております。さらに日薬連の企画が共存しますので、もはや物理的に割けるスペースがございません。
- 3) 企画展示の副会場としてOBPエリアを用いますが、その方針は、ホームページにございます。ここのテーマにもそぐいにくいかと存じます。
- 4) 企画展示は医総会参加医師の登録料を基盤とするのではなく、企業スポンサーからの協賛を基盤としますことから、企業の実情を踏まえて、市民への訴求力の高いテーマが要求されます。OBPエリアでは、個別テーマごとに協賛企業を探して尋ねて交渉を重ねてから実際の準備が始まりますが、いただいたテーマに対する協賛企業を残り10ヶ月を切った時点で探し出し、説得する余裕が現在の事務局に残されておられません。

以上、ご提案の価値や学術的意義とは無関係のことばかりで、非常に心苦しく感じておりますが、ご理解賜りますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。ご不明な点がございましたら、私宛にご連絡ください。

## 第27回日本医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員会の発足

実行委員会設立の準備会に参加された14名の医師、研究者らは、医学会総会の企画として受け入れられない場合に独自に展示とシンポジウムを開催するかどうかについて激論の末、満場一致で実行委員会を発足することにし、①医学会総会にお

ける企画であるということ鑑み、実行委員会への加入を呼びかけるのは、医師・医学者個人あるいはその団体とする。その他の個人や団体には協賛を呼びかける。②役員・事務局体制は次回に確立する。③第27回日本医学会総会企画展示事務局と今後の進め方について相談することを確認しました。

直後の医学会総会企画展示事務局に対する問い合わせに対する対応は「事務局ではまだ、協賛呼びかけの文書を作成中。大口の工業界の協賛はまだ煮詰まっていない。次回の企画委員会は9月から10月にかけてだが日程は未定である。同委員会で、企画の具体的実施内容を諮らねばならない。協賛呼びかけの文書が刷り上がったところに、実行委員会と面談するのがよい」と曖昧なものでした。

第2回実行委員会では、基本計画(案)が審議され、第27回日本医学会総会時に「戦争と医学」展を開催することの意義を考慮して、独自開催もありうることを前提にして、どんなことがあっても医学会総会側と粘り強く折衝していくという基本方針が確立されました。展示の基本的課題として、①戦争中の医学者・医師がかかわった危害の史実、②植民地医学・植民地医療の史実、③戦争政策・戦争動員と戦争自体の医学への影響、④日本医学会(界)の戦後と「731部隊」問題が設定され、戦医研の有する資料情報を各委員に提供することや「展示内容はあくまでも実証的なものとし、科学的資料を基本とする」という展示内容の原則が合意されました。また、大阪にある医学部、医科大学に所属する実行委員がいないということで私が委員長に選任され、大阪府保険医協会に事務局がおかれることになりました。

9月20日の医学会総会企画展示事務局への訪問要請では、「大阪城公園OBPパークでの企画展示に関しては、医学会総会の『関連企画』ではあるが、その内容などに関する責任は、医学会総会としては負わず、それぞれの責任で進めていただく。『戦争と医学』展に関しても、日本医学会として行なうには時期尚早で、あくまでも『戦争と医学』展の責任と負担で行なっていただきたい」「大阪城ホールはすでに埋まっている、その他の展示も、

基本的に企業の協賛による展示で埋まりつつあり、場所の提供を考えるとせいぜい3コマ程度しか残っていない。このままいけば企業協賛で全て埋まってしまう可能性が高い」という見解が示され、依然先行き不透明な状況でした。

9月23日には打診していた仙台の末永さんから早々と「植民地医学・植民地医療の史実」の原案が送られてきた。これで、このパートは戦医研の東北支部に担当をお願いすることとなりました。

9月24日の実行委員会では、別表に示すような実行委員会の体制、展示の分担、国際シンポジウムへの王鵬侵華日軍731部隊罪証陳列館館長、ダニエル・ウィクラーハーバード大学公衆衛生学部教授の招聘が決まり、医学会総会側とは引き続き折衝していくことになりました。

## 日本医学会総会会頭、企画展示委員会委員長への文書要請

10月に入って、医学会総会事務局気付で日本医学会総会会頭、企画展示委員会委員長宛で「私たちの『展示』および『国際シンポジウム』は、あくまでも医学・医療にかかわる史実の検証という純粋な学術研究にもとづくものであり、いわゆる商業ベースとは異なります。したがって、『ヘルスクリエイションパーク』における私たちの『展示』と『シンポジウム』に関して、一般『展示』とは少し別枠でのご考慮を賜りますようお願い申し上げます。1.『展示スペース』および『国際シンポジウム』会場の確保につき、ご配慮下さい。2.『展示スペース』および『シンポジウム』会場に関する費用負担につき、ご配慮下さい」という文書要請を行ないました。

これに対し、事務局から「今回の展示は医学会総会自体の直接的責任と関与のもとに行われるものでなく、あくまでも企画展示に参加する個々の組織や会社の責任でおこなっていただくものなので、厳密に区別していただきたい(内容に関しては、いわゆる公序良俗に反しない限り医学会総会の事務局側からは立ち入らない)。今回の企画展示についてはスペースがかなり限定されかつ長期にわたるため、その費用分を確保するために費用負担の例外は認

められない」などの連絡がありました。

引き続き電話でのやり取りでも、「1.『戦争と医学』展について対外的に宣伝する文書などに、『第27回医学会総会』本体による企画であると認識されるような表現(冠に用いるなど)は避けること。あくまでも個々の独自の企画であり『医学会総会』としては関知しない。2. 企画展示の場所については独立採算のため、企業協賛(協賛は4

ランクあり、プラチナ3000万円=3ブース、ゴールド1000万円、シルバー500万円、ブロンズ300万円=1ブース)を前提としたもの以外の例外は認めない(1ブースは2m×2m)。シンポジウム会場に関しても1枠単位で、同様の金額での企業協賛を前提とする。3. 10月末か11月初旬で協賛募集を締め切る。4. 締め切りが終わり、最終的な整理ができた段階で、どこかの壁面で展示が可能な余地などがあれば、『戦争と医学』展の側へ連絡する」と医学会総会側は厳しく指摘してきました。

以上の状況を10月22日開催の実行委員会では分析し、これに屈せず更に医学会総会側と折衝することが確認されるとともに、総額600万円の予算も立案され、募金活動をさらにつよめることとしました。さらに分担グループに分かれて展示内容の意見交換も行なわれ、いよいよ展示と国際シンポジウムの具体的準備に邁進することになりました。

## 日本医学会総会企画展示委員会 委員長を訪問要請

10月25日付で医学会総会の岸本忠三会頭および武田裕企画展示委員長に直接「要請状」を送り、①展示スペースおよび国際シンポジウム会場の確保への配慮、②展示スペースおよびシンポジウム会場に関する費用負担への配慮を要請しましたが、その後何の連絡もないため改めて武田委員長に面会を要請しましたところ11月15日に応じていただきました。要請は私と原事務局員が出向いて行い、1時間余りにわたり話し合いました。冒頭、武田委員長から医学会総会企画展示へ出展したい理由を尋ねられましたので、4点にわたり説明しましたが、「pure scienceの課題として重要、しかしpure scienceの課題であるから、企画展示に向かない、学術企画が妥当、学術企画については日本医学会代議員会の審議に基づいて行われているので今から無理」という論理を展開され、要請に対してはほとんど見るべき考慮はなく、先の同総会企画展示委員会の寺谷幹事や神田事務局から示された域を出るものはありませんでした。

### 実行委員会の体制

役職	氏名	所属等
実行委員長	西山勝夫	戦医研、滋賀医大教授
◎副委員長	高本英司	大阪保険医協会・理事長
〃	池田信明	大阪民医連・会長
〃	山口研一郎	現代医療を考える会・代表
事務局長	武田勝文	大阪協会・副理事長
◎◎		
顧問・監修	秋元波留夫	金沢大学名誉教授
	蒔◎昭三	15年戦医研・幹事長
	安斎育郎	立命館大平和館館長
	小田徹也	I P P N W大阪支部長
	下野英世	摂津市医師会長
	住江憲勇	保団連・会長
	土山秀夫	元長崎大学学長
	東野利夫	九大事件関係医師
	肥田◎泰	全国民医連・会長
	藤崎和彦	岐阜大学医学部教授
	松村高夫	慶応大学教授
	湯浅◎謙	西荻窪診療所
	吉田◎裕	一ツ橋大学大学院教授
委員	井上賢二	大阪協会・副理事長
(順不同)	小山高澄	大阪協会・理事
	垣田さち子	保団連近畿ブロック代表
	平井正也	大阪協会名誉理事長
	山上紘志	保団連・理事
	土屋貴志	大阪市大助教授
	浜野研三	関西学院大教授
	若田◎泰	近畿高等看護学校校長
	末永恵子	福島県立医大講師
	刈田啓史郎	東北大学名誉教授
	吉中文志	京都民医連中央病院長
	神戸◎修	大阪芸大教員
	村岡◎潔	仏教大学教授
	室井◎正	保団連・事務局長
	長瀬文雄	全日本民医連・事務局長
事務局	原◎文夫	大阪協会・事務局参与
	杉嶋正信	大阪協会・事務局長
	永野文衛	大阪協会・事務局主幹
	吉見賢治	大阪協会・事務局
	岩崎◎茂	保団連・事務局次長
	川添一彦	大阪民医連・事務局次長
	北條文幸	大阪民医連・事務局次長
賛同・協力	加藤周一	評論家
	中村尚樹	ジャーナリスト(元NHK記者)

## 日本医学会総会会頭を訪問要請

11月19日の実行委員会では、「①医学会総会企画展示委員会の姿勢は納得しがたいが、医学会総会とのかかわりをこちら側から絶つことはせず、少しでも可能性を追求してみる。具体的には、今回の「協賛」の中にあるプラチナからゴールドのランクではなく、「個別展示(小間展示=1枠35万円)」を3枠(105万円)申し込む。ただし、このランクに関しては、プラチナなどの協賛で埋まってしまえば余地がなくなる場合もある。②その結果、展示枠が得られなかった場合は、その経過を内外にも示して当実行委員会として独自の展示と国際シンポジウムを推進する。③医学会総会の岸本会頭に対して、あらためて面会を求め、企画展示以外にも何らかの考慮ができないのか、などを要請することとなりました。これを受けての折衝の結果、11月29日に日本医学会総会会頭を訪問要請ができることになり、私、住江顧問・保団連会長、事務局の原が訪問することになりました。

岸本会頭は、①今回の医学会総会で、会頭などが直接関与しているのは学術企画部分であり、企画展示部分については各参加企業などに任せている。またその部分は商業ベースになっており、その上り、協賛金が総会を賄う資金にもなっている。②学術企画で取り上げる場合は、医学会「総会」前に日本医学会としてどうするか議論が必要だ。したがって、先ず医学会としての意向を聞く必要がある。その場合、これ(「戦争と医学」展)については、(医学会の中に)いろいろな考え方の人がいる。私自身はある程度リベラルだと思っているが、なかなか全員の賛同は難しいのではないか。③また実務上からも、今回これを医学会として取り上げることは日程的に無理ではないか、という見解を示されました。

これらに対し、実行委員会側から、①これまでも、ある程度は医学会総会開催地の会頭の意向で対応できたものもあったが、それはどうか。②仮に今回は難しいとしても、4年後、8年後には実現できるよう、そしてドイツの医学界のように、き

ちんと過去の「戦争と医学(医学界)」の関わりを清算できるように考慮していただきたい。③戦後60年を過ぎ、保団連も昨年731部隊問題を取り上げた。今回の大阪での医学会総会では、「いのち、人、夢」のテーマで生命の原点を考えようとされており、我々の企画はこれらに沿うものと考え、期待してきた。④国際的にも、いまあらためて戦前の731部隊など日本の医学界、医学・医療者の関わった問題への対応が注目されてきている。そうしたことに日本の医学会(界)として応えていただきたい。⑤過去の医学会総会では、住民・患者団体からの要請で、インフォームドコンセントをめぐる問題などの企画が取り上げられ、後援したりしている。今回の我々の企画にもそのような対応ができないか…などを要請し、尋ねました。しかし、岸本会頭は、「基本は日本医学会での合意が必要なので…」、「この問題はセンシティブなので…」と述べられるにとどまりました。なお、展示内容については「チャージを払えば、公序良俗に反しない限り介入しない」というわけにはいかないことを表明され、協賛展示といえども医学会総会側が責任を有することが明らかとなりました。

12月17日の実行委員会では、「最悪」のシナリオになることも覚悟しながら、それに左右されない独自の取組みを進めることとしました。また、かねてより検討していました全国の大学の医学部長、医大学長並びに医学部・医大医学教育責任者(80校)に対する「現在の日本の医学教育で医学研究・医の倫理についての教育の実態をつかむためのアンケート」を、早急に送付し、その回答結果を「戦争と医学」展の前に記者発表することなどを決めました。

## 医学会総会展示決定

年が明け、2月1日になって、企画展示委員会事務局から「出展申込みの回答をするので」という連絡があり、武田事務局長と原事務局員が、阪大中之島センターへ赴いたところ、企画展示委員会事務局(神田、中谷氏)から、「展示場所はOBP円形ホール内のトイレ前の通路にそってシステムパ

ネル(幅990、奥行495、高2500mm)2個分を貸与する」というもので、実行委員会が申し込んでいた2m×2mの小間3つにも程遠いものでした。

2月4日の実行委員会は朝から開催し、各分担グループの会議で展示内容の検討がなされ、午後の全体会議で意見交換をしました。展示については、医学会総会の展示の一面であることは間違いなく、多くの人が3月31日から4月8日まで来場されるので、確保したスペースを有効に使い、また別会場のたかつガーデンおよび国際シンポジウムの宣伝を行うことができるということで、予めから検討されていたチラシの配布開始、総合リーフレット作成の着手が決められました。また、日本医学会に加盟している101の医学会会長に対し「医師の戦争犯罪、医学会の戦争負担に関する調査」への協力をお願いすることになりました。

2月14日になって、日本医学会総会事務局の神田氏から原事務局員宛てに電話がありました。それは、「(8日に各医学会へ送付したアンケートを見た)ある医学会から、医学会総会事務局に対して、このアンケートの件で問合せがあった」ことからということで「医学会総会自身がアンケート等に直接関与しているかのように受け止められており、以前に注意した『医学会総会本体が関与しているかのように受けとられるような表現は絶対に用いないように』に反している。このようなアンケートを行うのなら、医学会総会本部に事前に相談して頂かないと困る。至急に何らかの善処をされたい。アンケートの内容に関しても問題がある。場合によっては岸本会頭はじめ総会の委員に説明をしてもらう必要があるかもしれない。また状況次第では展示を認められない場合もある」というものでした。電話でのやり取りの末、日本医学会総会が恐れられている「誤解」のないように当実行委員会から「追加説明」文を各医学会宛てにFAX送信することで、とりあえず落ち着きました。

## 本番に向けてのダッシュ

2月25日の実行委員会も午前中の各分担グループの会議から始まり、午後は全体会議で互いに講

評して展示内容の推敲が進められました。また、OBPホールの展示は50インチ大型モニターで行なうことになりました。3月1日には王鵬館長から中国語の講演原稿が届き、早速、日本語・英語への翻訳が着手されました。展示パネルの原案作成は大幅に遅れているものの顧問・監修のご意見を伺わないわけには行かないということで、3月3日に一応冊子体に仕上げられたものが速達で事務局から発送されました。以降顧問・監修のご意見を検討しながら、事務局員の援助のもとに展示パネルの編集・作成が連日にわたって進められることになりました。

3月25日には、本番前最期の実行委員会も前回同様午前中から開催され、午後は相互講評の他に、日本の医師の立場から講演される筋先生の講演内容についても意見交換を行ないました。こうして3月30日には展示パネル用のパワーポイントファイルもほぼ完成し、31日からの医学会総会場でのモニター展示にこぎつけることができました。この日には、三重県尾鷲市在住の元731部隊員(88歳)から「8日の国際シンポにぜひ参加したい」という電話が入り、貴重な証言が得られる期待が現実味を帯びることになりました。

4月6日からたかつガーデンで始まった展示はパネル数122枚で、同時にパネルをA4判に縮刷された冊子が希望参加者には実費で配布されました。この原版も前日の搬入時に一部訂正が入ってから完成したものであり、事務局のフル回転で当日何とか間に合ったものでした。また、同日に待望のWikler教授のパワーポイント原稿が届き、超特急で日本語・中国語への翻訳が着手され、何とか国際シンポジウムに間に合わせる事ができました。

以上の取組みを経て、無事開催された国際シンポジウムの内容については、最期に紹介された「医学者・医師の戦争負担についての公式の検証と反省を日本医学会に要請する2007年大阪『戦争と医学』展の宣言」の掲載にとどめ、他は『月刊保団連』8月号に譲りますが、王鵬館長が医の倫理の視点から講演をまとめられたこと、ウィクラ教授が、私たちの取組みには次の世代に厄介なことを

丸投げしないという価値があるという指摘、ロ号棟で軍務についていた元731部隊衛生伍長大川福松さんの証言からは強い印象を受けました。

## 4年後は日本医学会自身で過去の検証と反省を

当初実行委員会がどこまで独自にやるかについてあった逡巡に対する答えを私たちは得たと思います。すなわち、筋戦医研名誉幹事長が講演でまとめられたように「731部隊」にかかわった一人ひとりを裁く権限は私たちにないが、かつてあったことを克明にし、何が問題であったかを明らかにしておく責任がどれほど大きく日本の医学界にあるかを新たなレベルで明らかにすることができたのではないのでしょうか。

中川米造先生が、大阪大学から滋賀医科大学に転勤されて間もない1991年に京都で開催された日本医学会総会に際しては、731部隊に関する展示を

するために奔走されていましたが、「タブー」のもとで、私は何もできなかったことが思い出されます。中川先生が急逝されていなければと思うこともしばしばでした。医学界の心ある人々の取組みの積み重ねがあったからこそ今回の取組みに漸く到達できたものと思います。

今回の取組みについて、多くの方々から賞賛を頂きましたが、15年戦争中の日本の医学犯罪の犠牲になられた方々のことを想起するなら、私たちは決してそれに甘んじることはできないでしょう。これからも、さまざまな困難があるでしょうが、それらが克服されて4年後に東京で開催される第28回日本医学会総会が、公式に、かつての戦争荷担に真摯に向き合うことを願って止みません。

## 医学者・医師の戦争荷担についての公式の検証と反省を日本医学会に要請する 2007年大阪「戦争と医学」展の宣言

第27回医学会総会は、1931年から45年までの15年間の中国侵略、いわゆる15年戦争の終結後60年の節目、また盧溝橋事件に始まる「日中戦争開戦」70周年にあたる2007年の3月31日から4月8日にかけて大阪で開催されました。

今日、医学医療の歩みは著しく、医学者・医師にますます高い倫理が求められています。これに応えるために、医学医療のこれまでの歩みを真摯に振り返ることは重要です。第27回医学会総会のメインテーマが「生命と医療の原点—いのち・ひと・夢」とされ「原点からの情報発信」が掲げられているのも、「原点からの反省」が今日医学界に強く求められているからだと思います。

「原点からの反省」として、昭和の初期、「戦争期」及びそれに続く「戦後期」の医の倫理にかかわる反省は欠かせない重要な課題でしょう。特に「15年戦争」に日本の医学会・医師会が荷担したことや日本の医学者・医師により行われた人道に反する残虐な「人体実験」「生体解剖」等について戦後の医学会（界）が克服していないことを考える時、遅きは失したとはいえ、真摯な検証と反省は欠かせません。

日本医師会が、1951年に世界医師会への加盟に際して出した声明は、この問題に日本医学界が公式に言及した唯一のものであります。しかし、これとても日本の医学者・医師による戦争中の残虐行為を真摯に反省したものとはいえません。

その後も、日本の医学会（界）がこの問題について検証・反省することはありませんでした。

このような日本の医学会（界）の風土は、戦後繰り返されてきた数々の医療過誤や薬害において幾多の人々が犠牲になったことと決して無縁ではないと考えられます。

「過去に目を閉ざすものは、現在さえも見えなくなります」という歴史の教訓を踏まえれば、第27回総会は戦前・戦後の日本医学会（界）の歩み、特に「戦争」との関連での歩みを振り返るよい機会でした。第27回医学会総会実行委員会に対しては、総会の公式企画として取り上げられるようにという動きもありました。

しかし、第27回医学会総会実行委員会は残念ながら公式の企画をしませんでした。やむをえず、期を同じくして、大阪の地において、独自に開催されました「戦争と医学」展においては、「戦争と医学」について、真正面からとらえ直す展示と全国の医師・医学者らと共に考え討論する国際シンポジウムが持たれました。

この「戦争と医学」展を契機に、全国の大学が徹底した医の倫理の教育を行なわれること、各医学会が学会のあり方に対する検証・反省を行なわれること、そして4年後の第28回医学会総会においては、総会自らが「戦争と医学」展を開催し国際シンポジウムなどを企画されることを要請します。

私たちは、今後もこの問題を追究し、その教訓がこれからの医学医療にいかされるように努めます。

2007年4月8日

第27回医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員会

年月日	主な動き
1995	大阪府保険医協会決議
2000.6.17	15年戦争と日本の医学医療研究会創立
2005.10.9	保団連医療研究集会 国際シンポジウム「医師・医学者の戦争責任を考える——関東軍731部隊をめぐる——」
2006.1.19	15年戦争と日本の医学医療研究会、日本医師会会長を訪問要請
5	第27回日本医学総会企画展示委員会に打診
6.5	第27回日本医学総会企画展示委員会武田裕委員長宛メール文要請(15年戦争と日本の医学医療研究会事務局長名)
7.7	第27回日本医学総会企画展示「戦争と医学・医療」展実行委員会へのご参加のお願い(15年戦争と日本の医学医療研究会幹事長助昭三名)
9	保団連第36回夏季セミナー講座1「医師の戦争責任について考える」
28	第27回日本医学総会企画展示事務局よりメール文回答
30	第27回日本医学総会関連「企画展」—「戦争と医学」展実行委員会創立会議
8.1	医学会総会企画展示事務局神田氏に電話(戦争と医学展実行委員会名)
6	保団連理事会、8月15日終戦(敗戦)記念日に「過去への反省と不戦の誓い——終戦記念日にあたっての決意」という理事会声明を確認、「15年戦医研」からの呼びかけに応じて実行委員会への参加の方向も確認
21	毎日新聞大阪より27日の実行委員会の取材申し込みがあったが謝絶
27	第27回日本医学会総会関連「企画展」—「戦争と医学」展実行委員会(第2回)
28	戦医研第4次訪中調査団(9月5日迄)、王館長に助幹事長の親書を届ける
31	メールインタビュー開設
9.20	医学会総会企画展示事務局を訪問要請(西山、原)
24	第27回日本医学会総会—「戦争と医学」展実行委員会(第3回)
10.3	第27回日本医学会総会—「戦争と医学」展実行委員会への参加・後援・賛同・証言・史料提供・募金のお願い、顧問就任の要請開始 たかつガーデン借用申請 医学会総会事務局気付、日本医学会総会企画展示委員会委員長へ文書要請 日本医学会総会企画展示委員会寺谷慎真幹事から実行委員会宛に電話 医学会総会寺谷幹事より「社会装置としての医学会総会概論」
11	医学会総会企画展示概要発表会(出席：武田事務局長、小山委員、原事務局長)
12	実行委員会銀行口座開設
22	第27回日本医学会総会—「戦争と医学」展実行委員会(第4回)
25	医学会総会企画展示委員会委員長への要請状
11.15	医学会総会企画展示委員会委員長への訪問要請(西山、原)
19	第27回日本医学会総会企画展示「戦争と医学」展実行委員会(第5回)
21	企画展示協賛申込
29	医学会総会企画展示「戦争と医学」展実行委員会(第5回)
12.1	大阪府庁の記者クラブへ取材要請、毎日新聞取材
17	第27回日本医学会総会企画展示「戦争と医学」展実行委員会(第6回) 「たかつガーデン」の会場を下見
18	在瀋陽日本総領事館宛、王館長招聘申請
19	医学会総会企画展示事務局神田氏が事務局を来訪
20	医学部・医大教育責任者に対する「医学教育に関するアンケートのお願い」「募金にご協力ください」シンポジウムへの講演原稿執筆依頼状 ホームページ立ち上げ



2007. 2. 1
4. 1 医学会総会企画展示事務局よりOBP円形ホール出展協賛受入の連絡
  - 4 第27回医学会総会より出展者要項文書着信 第27回日本医学会総会出展「戦争と医学」実行委員会(第7回) チラシ:「戦争と医学」展と国際シンポジウム 読売新聞、毎日新聞報道
  - 8 日本の各医学会に対する「医師の戦争犯罪、医学会の戦争荷担に関する調査」のためのアンケート依頼 読売新聞、赤旗報道
  - 10 大阪府保険医教会「冬のハルビンの旅」(13日迄)、11日王鶴館長とシンポジウムの打合せ
  - 12 参加団体へ3月31日～4月8日の事務局要員のお願ひ
  - 14 医学会総会事務局からクレーム
  - 15 大阪城公園OBP円形ホール出展協賛申し込み手続き
  - 25 第27回日本医学会総会出展「戦争と医学」実行委員会(第8回)
  3. 1 王鶴館長より講演原稿(中国語)到着
  - 3 顧問・監修に展示パネル原案を送付・チェックを依頼
  - 11 第21回戦医研:第27回医学会総会プレシンポ(京都大学百年時計台記念ホール)
  - 15 医学部・医大教育責任者へアンケート再依頼
  - 18 第27回日本医学会総会出展「戦争と医学」実行委員会(第9回)
  - 20 報道各社に対し「取材と報道の要請」依頼状
  - 23 週刊金曜日掲載
  - 25 日本衛生学会評議員会にて「かつての戦争に担当したことについて日本医学会自身が検証と反省を行い、4年後の第28回医学会総会の公式テーマとして、この問題を取り上げるよう働きかけていくように」という提案が受け入れられる。
  - 26 保団連事務局:厚生記者会及び厚生日比谷クラブに一連の資料持参のうえ、報道要請
  - 27 日本衛生学会にて「日本衛生学会の『15年戦争』への担当について  
—中国大連市にあった滿鉄衛生研究所をめぐって」のポスター発表(西山)
  - 30 大阪城公園OBP円形ホールへ展示物搬入、設置
  - 31 第27回日本医学会総会のオーガニゼーションセミナー(大阪城ホールで)に、西山委員長が来賓参加
  4. 2 OBP円形ホール展示開始 三重県尾鷲市在住の元731部隊員(88歳)から「8日の国際シンポにぜひ参加したい」という電話報道各社へ「戦争と医学」展・リーフレットの送付
  - 5 たかつガーデン展示物搬入、設置
  - 6 たかつガーデン展示開始、王館長、Winkler教授普
  - 8 国際シンポジウム「戦争と医の倫理」展示撤収、懇親会
  - 9 ウィンクラー教授、王館長奈良観光
  - 10 ウィンクラー教授帰国、王館長:ピース大阪訪問、保険医協会・民医連・日中友好協会大阪府連共催懇談・交流会 奈良新聞報道
  - 11 王館長京都大学など訪問
  - 12 王館長東京で元731部隊員篠塚義雄氏などと交流
  - 13 王館長飯田市訪問、元731部隊員の遺品などを確認
  - 14 中国残留孤児の帰国運動の経緯など聞いた後東京へ、慶応大学「連続講座東アジア」出版会へ参加 信濃毎日新聞、中日新聞、信州日報、新聞報道
  - 15 南信州新聞報道 王館長ABC企画委員会主催交流会
  - 16 靖園、戸山731部隊関連連箇所訪問
  - 17 王館長帰国